

～輝きの子育て～

「自分の頭で考える」

昭和30年代初期の三種の神器は、洗濯機、テレビ、冷蔵庫でした。その後、カラーテレビ、クーラー、自動車になり、令和の時代では、ロボット掃除機、ドラム式洗濯機、食洗器になりました。

文明が進み、生活が豊かになると人々は辛い仕事から解放されていきます。それと同時に我慢することは苦手になったようです。テレビやネットの受け身の方が楽し、知りたいことはスマホ。パソコンで瞬時に知ることが出来ます。

本も開かなくなりました。学生では年齢が上がる程、本を読まない人が増えています。学校や職場では問題解決にはすぐ話し合いが始まります。仕事の場ではマニュアルの氾濫です。自分の頭で考えなくてもよい時代になって来ましたが、問題はあります。情報の真偽や是非を判断するには読書から築いた健全な知識、教養、道徳、情緒が必要になります。皆で話し合ったり、世論に従った方がより良い結論になるとは思えません。三人集まれば文殊の知恵だが、バカが三人集まれば三倍バカになると言われています。

マニュアルはどんどん書き変えるのが革新であり進歩になるが、遵守することは停滞を意味します。このような状況の中にオープンAI社の対話型人口知能(AI)「ChatGPT」が昨年11月に公開され、瞬く間に利用者を増やしています。グーグルは「Bard」を、マイクロソフト社は「Bing」をリリースしています。ますます自分の頭で考えなくなるのではないかと少し勉強してみました。わからないことを調べたり、文章の下書きを作成したり、企画書作成をサポートしたりしてくれます。試していませんが詩や歌詞、音楽の作成、プログラミングのコード作成まで出来るそうです。

質問を入力するだけで、またたく間に文章で返事を返してくれます。弱点は何だろうと「Bing」に質問してみました。正しいと思われる回答が来ました。

「Bing」を利用する際に最も注意することは、検索結果が必ずしも完全であるとは限らないことです。検索結果は検索エンジンが収集した情報に基づいていますが、その情報は古い、不正確また不完全である場合があります。また検索結果には、広告やスパムなどの不要な情報も含まれる場合があります。その為検索結果を参考にする際には、情報源を確認し複数の情報源から情報を収集することが重要です。」と答えて来ました。AI技術の進歩で、私達はどうか対応すればよいのでしょうか。野口悠紀雄一橋大学名誉教授は2つの答えを示しています。

- 「人間は知識を持っていないでよい」「勉強する必要はない」でしょうか。「否」です。「何を質問するか」が大切です。よい質問は高い能力のある人のみ出来るものです。勉強しない人は高級なAIに対して、つまらない質問しか出来ません。「愚問愚答」「宝の持ち腐れ」「豚に真珠」「猫に小判」です。
- 今一つ、勉強が必要な理由は、人間が新しいアイデアを発想するには、頭の中に蓄積してある内部情報との照合が必要です。内部情報を多く持っている人ほど、沢山の発想が出来ます。その内部情報を蓄積するには勉強が必要です。

勉強は本を読むことが昔は主流でしたが、現在は勉強の手段は多岐に亘っています。いろいろな手段を使って勉強し、頭の中に知識を蓄積することは昔も今も変わらないと思います。

つい先日まで私は今から世界で生きていくには英語が出来て、プログラミング能力があれば大丈夫と思っていましたが、AIがコーディングまでやってくれるとなると考えを変える必要に迫られています。

片野 英司

- 参考 ○ 「超」勉強法 野口 悠紀雄 著 (プレジデント社)
○ 文芸春秋 2023年4月号 巻頭随筆 藤原 正彦